

研究課題：「HIV 陽性者への心理的支援に至った経緯とその後の心理的支援について」

◆研究の意義・目的

近年、HIV 陽性者のうち、精神科受診歴のある人は約 9.5%といった報告や日本における HIV 関連認知機能障害の割合が明らかになっています。その中で HIV 領域における心理的援助や認知機能検査実施のニーズが高まってきていますが、HIV 医療チームにおける心理士の役割やその有用性は明らかになっていません。今回、当院における HIV 患者さんを対象に心理的支援に至った経緯とその後の心理的支援について研究としてまとめることで、HIV 医療チームにおける心理士の役割が明らかになり、患者さんにもより早期に心理的支援が行えるための示唆になると思い、この研究を計画しました。

◆研究対象者

2016 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日までに広島大学病院血液内科外来通院中の HIV/AIDS 患者さんのうち、心理検査を実施した患者さんを対象とします。

◆研究方法

本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテから使用する内容は、年齢、性別、血液検査、実施した検査名、心理検査結果、心理検査実施に至るきっかけとなった内容及びアセスメント内容です。（個人が特定できる情報は転記することはありません）

◆研究機関（委員会承認後）～平成 30 年 3 月 31 日

◆個人情報の保護について

調査内容については、プライバシー保護に十分留意して扱います。個人を特定する形で公表されることや第三者に知られるなどのご迷惑をおかけすることは一切ありませんので、ご安心ください。

ご不明な点がございましたら、下記のお問合せ先までご連絡ください。

*研究に資料を提供したくない場合もお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生じることは一切ありません。

お問合せ先

広島大学病院エイズ医療対策室

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3

TEL : 082-257-5351

研究責任者

広島大学病院輸血部 准教授 藤井輝久

研究担当者

広島大学病院エイズ医療対策室 リサーチレジデント 杉本悠貴恵